


















# 令和 6 年度国際理解ワークショップ 進行シート

令和 6 年 8 月 5 日作成

大 学 名 : 新潟大学

タイトル : フードダイバーシティってなに？

## 1. 本ワークショップに関連する SDGs の目標に○印をつけてください。

○印	SDGs17の目標	○印	SDGs17の目標	○印	SDGs17の目標
	 ① 貧困をなくそう		 ⑦ エネルギーをみんなに そしてクリーンに		 ⑬ 気候変動に 具体的な対策を
○	 ② 飢餓をゼロに		 ⑧ 働きがいも 経済成長も		 ⑭ 海の豊かさを 守ろう
	 ③ すべての人に 健康と福祉を		 ⑨ 産業と技術革新の 基盤をつくる		 ⑮ 陸の豊かさも 守ろう
	 ④ 質の高い教育を みんなに	○	 ⑩ 人や国の不平等 をなくそう		 ⑯ 平和と公正を すべての人に
	 ⑤ ジェンダー平等を 実現しよう		 ⑪ 住み続けられる まちづくりを		 ⑰ パートナーシップ で目標を達成しよう
	 ⑥ 安全な水とトイレを 世界中に	○	 ⑫ つくる責任 つかう責任		

## 2 : 本ワークショップの要旨

このワークショップでは世界各国の「食」をテーマに、フードダイバーシティや異文化共生について理解を深めていく。世界各国の文化を背景とした食文化の違いを知ることを通じて、フードダイバーシティについて考える。グループワークを中心に、児童生徒が主体となって世界の国々と自国との食文化の違いについて考えてもらいたい。

## 3 : 本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

人間が生きるうえで最も重要な「食」の観点から、児童生徒に世界各国のさまざまな文化や習慣を理解し、多様性について楽しみながら考えてもらうこと。また、児童生徒が主体となって異文化共生について理解を深めること。

## 4 : 本トピックをとりあげる理由

現在訪日外国人は高水準を記録し続けており、異文化交流が盛んとなっている。その影響で異文化理解の重要性が高まっており、観光事業、特にフードツーリズム事業の中では食の多様性を意味するフードダイバーシティが話題となっている。フードダイバーシティは主に宗教や地域文化の違いによって生じ、イスラーム教の戒律に沿ったハラール食などが例として挙げられる。日本でもハラール食を提供する飲食店が普及するなど、フードダイバーシティへの関心は高まっている。このような日本の現状や、小中高生にとって身近な「食」を題材にすることで生徒が主体的に取り組むことができると考えたため本トピックを取り上げた。

## 5 : 活動過程

(使用時間 : 90分 参加人数 : \_\_\_\_\_)

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・ 説明・動きなど	ねらい	使用する 教材・備品	予想される反応、 その他注意事項
導入 : 起 (12分)	自己紹介  テーマの紹介  好きなおやつ について	名前など簡潔に (このときに自 分の好きなおや つも紹介)  ①児童生徒全員 に自由に自分の 好きなおやつを 付箋に書いても らう (2~3分) ②ファシリテー ター側の自分の 好きなおやつを 貼りつつ四象限 の説明をする (1 分) ③児童生徒に付 箋を四象限に貼 らせる (2~3分) ④貼ったものを 見て気づいたこ とを班で話し合 う (3分) ⑤発表 (1~2 班 くらいをこちら から選ぶ) (2分)	ワークショ ップのテー マを知って もらう  この後貼る ときのイメ ージを持た せる	付箋 模造紙(縦軸 に「甘いー塩 辛い」、横軸に 「加工品／お 店や工場で作 られるー素材 そのまま／手 作り」と記入し たもの)	外国つながりのあ る児童には配慮す る(全体を通じて)  模造紙の四象限に 注目してもらい、 ふだん食べている おやつの特徴を理 解してもらう(と くに日本のおやつ の特徴はなにか)

<p>展開：承 (33分)</p>	<p>国当てゲーム とおやつ探し</p> <p>発表</p>	<p>①6つの班にそれぞれ異なる国の写真を配布する。 ②写真の概要を説明して、国当てとおやつ探しをさせる（ファシリテーターはそれぞれの担当の国の班のところへ）（5分） ③答え合わせの紙を配り、確認する（2分） ④それぞれの班で国とおやつについてわかったことを発表する。（15分） ⑤自分の担当した国の中で好きなおやつをひとつ選んで付箋に書かせる（2分） ⑥4象限に貼らせる（2分）</p> <p>①一つ目の4象限と2つ目の4象限を比べたりして気づいたことを班で話し合う ②時間を見ていくつかの班に発表させる</p>	<p>日本のおやつと世界のおやつの相違点や類似点を感じてもらう。</p>	<p>写真（国別の家族とその一週間分の食材の写真） 付箋 模造紙 世界白地図 （国名入り）</p>	<p>配付した写真の国当ては正解よりもどうしてそう思ったのかを中心に答えをもらおう</p> <p>世界のおやつの多様性について四象限をもとに理解するだけでなく、おやつの多い少ないにも気づいてもらう</p>
-----------------------	------------------------------------	---	--------------------------------------	---	--



		分を外して正解を伝える。(1~2分)			
まとめ : 結 (25分)	いつもと違う食べ方について  それぞれの食べ方の長所について	①ワークシートに載っている食べ物を「いつもの食べ方」とは違う方法で食べたらどんな気持ちになるかグループで話し合ってもらおう。(5分) ②「いつもとちがう方法で食べてみたら…」の欄を各自で記入する。(5~6分)  ①箸、ナイフ・フォーク、スプーン、手で食べることそれぞれの	それぞれの食べ方の特徴と食べ物との相性について考えるきっかけとする。	ワークシート	たとえば、うどんをフォークで食べる、ハンバーガーを箸で食べる、ごはんを手で食べるなどを想像してもらい、意見をどしどし出してもらおうよう促す。

		<p>良いところについて質問する。</p> <p>②世界各国の食べ方について解説する。(3分)</p> <p>③ワークシート「いろいろな食べ方」を配布し、それぞれの食べ方の特徴や長所を考え、各自で記入してもらう。(6分)</p> <p>④全体で気付いたことや興味を持ったことを発表してもらう。(2分)</p>	<p>世界の食べ方は地域ごとに大きく三つに分けられていることを知ってもらう。</p>	<p>意外なことに世界では手食文化がいちばん多いことに気づいてもらい、それが宗教人口の多さと関連していることに気づいてもらう。</p>
	×の言葉			

#### 6：会場のセッティング（対面の場合のみ）

- ・机を班ごとにグループワークができる形にしておく（6班）。
- ・黒板やホワイトボードなど模造紙を貼れるものがあること。

#### 7：使用する教材

- ・国ごとの写真・ワークシート
- ・世界地図

※すべてこちらで用意する

#### 8：参考にした資料

- ・開発教育協会（2017）.『写真で学ぼう！「地球の食卓」学習プラン10』.開発教育協会

#### 9：その他

- ・特になし